

[メルディア]

一般財団法人メルディア広報誌

MELDIA

Special
対談
布施博×
有吉孝之

知的障がい者と共に
生きること
知的障がい者と共に
つむぐもの

布施博が訊く
東京都知的障害者育成会

知的障がいを持つ息子と私
水越けいこの「M size」

障がいを持つ作家たちのアート展
つながるひろがるアート展NASU

知的障がい者と一緒に物語を創る
つむぐ

月刊メルディア
VOL.2
TAKE FREE

MELDIA | 2018 FEB. VOL.2

月刊メルディア 2月号 2017年12月25日発行 (毎月1回25日発行) 第2号 通巻2号
発行所/一般財団法人メルディア事務局 〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F

TAKE FREE



Design Your Life
MELDIA
GROUP

同じ家は、つukらない。



メルディアグループ
<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計
〒163-0632
東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービル32F

25th ANNIVERSARY
まだ25年、
これからのメルディア

障がい者による高度な
清掃サービスの現場を
俳優・布施博が体感！
障がいのある人でも「職業人」
としての誇りを持って自立する

社会福祉法人の「東京都知的障害者育成会」は、昭和36年に東京都内の「親の会」の連合体として発足した団体だ。知的障がい者の教育・福祉・労働・医療等の制度や施策の向上を訴え、これまでに民営授産作業所、東京都通勤寮、生活寮（現グループホーム）など、制度の先駆けとして様々な事業を展開してきた。その中、「顧客満足度」を追求する高度な清掃業務の提供を行なっているクリーンサービス事業の現場を俳優・布施博が訪れた。





が、やはり通常の生活もままならないという現実があるんですね。そこで、東京都に

事業の達成感はたくさんありますが 働く本人たちさえ満足してくれれば

社会福祉法人 東京都知的障害者育成会 法人事務局次長

Takayuki Ariyoshi **有吉孝之**

俳優

布施博 Hiroshi Fuse



1971年生まれ。93年に淑徳大学卒業後、社会福祉法人東京都知的障害者育成会に入職。足立区、江戸川区、大田区の事業所を経験し、15年10月より、法人事務局次長と都育成会クリーンサービス施設長を兼務。

1958年、東京生まれ。舞台俳優としてデビューし、映画やテレビドラマで数多く活躍。バラエティー番組への出演も多い。現在は劇団「東京ロックンパラダイス」と「東京DASH!」を主宰し、後進の指導にも注力している。

障がい者支援を続けて半世紀 さらなる活動範囲拡大が目標

布施 まずはこちらの育成会の設立の目的や活動内容について教えて下さい。
有吉 知的障がい者の方たちは義務教育を受けなくていいと言われていた時代がありました。それに異議を唱え、知的障がいがある人でも教育を受ける権利を獲得する草の根運動がそもそも始まりです。ですが、教育を受けられるようになって高校まで進学した方がいいが、実は活動する場所がぜん

ぜん無かったんです。「それなら活動する場所も作っていい」ということで、軽作業のような作業を行える人と場所、仕事を用意する活動をするようになりました。そういった動きが各地で起ころううちに、行政の補助対象となって動き始めたというのが団体の簡単な経緯です。ついこの前に50周年を迎えたので、おおよそ半世紀の歴史があります。
布施 驚きました。そんなに長い歴史や活動の実績があったんですね。有吉さんがこういった活動をして行こうと思ったきっかけはどういうことだったんですか。

国際基準を満たした衛生管理で エボラ出血熱対策さえも可能

家賃助成をお願いしているところです。

布施 様々な活動をされる中でクリーンサービス事業をされてますよね。これはどういったものなんでしょうか。これはどういったものなんでしょうか。

有吉 実はすごく自分たちとしては誇りに思ってます。俗に言う清掃サービス以上の病院清掃レベルの高度なサービスを提供しているからです。使っている洗剤も諸外国の安全基準を満たしたもので、やる



けはどういうことだったんですか。

有吉 ボーイスカウトをやっていた小学校時代に障がい者施設のボランティアに行っただんです。そうしたらその時の空気が心地よくて。高校を卒業して進路を選択するにあたって、「障がい者と関わる仕事したい」という思いから、障がい者福祉の道を志しました。それから専門の単科大学に進んで今の法人に就職しました。
布施 親の会の方々から寄せられる声にはどういったものが多いのでしょうか。

有吉 一番多いのはグループホームの家賃助成に関わるものです。今の仕組みでは、グループホームで生活する人達がそれぞれの地域で4〜10名ほどの少人数で生活しようということになっています。ですが、それでは当然、家賃がかかります。本人たちにはもちろんそれぞれの収入があります

うと思えばエボラ出血熱の対策もやれるレベルの品質を誇っています。

布施 それはすごい。どうやって品質管理を行っているんですか。

有吉 人によって得意な作業を振り分けられる仕組みを作っています。そうして彼らが働いている姿を見ると、働く喜びに満ちているんですね。働けば当然、それに見合った対価も受け取れて自信にもつながります。うちでは東京都の最低賃金以上の賃金を保証していますから。親御さんの声を聞いていると、普段は家にいた人が積極的に外に出て、しかもクリーンサービスと一緒に働く人と出掛けたりと、少しずつ変化しているようです。まだスタッフは5名と人数は少ないんですが、様々な年齢や障がいの人が働いています。

布施 そういった活動をしていく中でどういったことに喜びを感じますか。

有吉 新しい試みですから、まずは得意先を開拓できたこと。仕事先が広がり、そこで働き始める人も増え、最初に最低賃金も払えた時は良かったなあーと思えました。けれども最終的には働く本人たちが満足してくれれば僕はそれでいいです。

布施 この冊子の取材をする度に、世の中には自分の知らなかったことが多いんだということに改めて思い知らされます。そう

MELDIA

一般財団法人「メルディア」とは

障がいのある方を支援する活動と、スポーツ(サッカー等)を行う児童・青少年を支援する活動を通じて、人々と社会に広く貢献することを目的として設立されました。

「メルディア」の基本理念

一般財団法人メルディアは社会的・経済的ハンディを抱える方々の「未来」に少しでも希望が持てるように、財団の活動を通じて支援し、社会貢献してまいります。

知的障がい者支援

障がい者の子供を持つ親の苦労や不安は計り知れないものがあります。さらに、親が「片親」の場合は、経済的負担や苦労・不安もその親1人で背負わなければならない状況です。不安な生活の中で、情報交換もあまりできない方々の情報源となるような刊行誌を定期的に財団で作成し、そういった方々への有益な情報提供と、障害者の持つ課題等を広く社会に知ってもらうこと、そして様々な企業や個人から、支援団体などに対する寄付を募ることを目的として、本誌「MELDIA(メルディア)」を発行し支援活動を行います。

青少年スポーツ支援事業

家庭の事情等で経済的に恵まれない 青少年のフットボーラーのための奨学制度

アルゼンチンのロサリオ出身のリオネル・メッシは、経済的に恵まれない低所得な家庭に生まれましたが、チームが彼を支援し彼も成長して世界を代表するフットボーラーとなりました。メッシは才能を評価され、たまたま支援を得られましたが、青少年の中では、才能があっても経済的な家庭の事情で、サッカーをする環境に恵まれずに支援がないまま、選手としてプレイをあきらめざるをえなかったり、適切な環境でプレイすることができない人たちがいます。そういう若者は、日本にも数多くいるのが実情です。

そのような青少年フットボーラーがプレイを継続するために、「頑張る人を支える奨学制度」を財団法人メルディアが実施し、社会貢献したいと考えています。

財団概要

名称 一般財団法人メルディア
(英文名: general foundational juridical person MELDIA)
設立者 小池 信三
設立日 2017年5月23日
所在地 〒163-0632
東京都新宿区西新宿 1-25-1
新宿センタービル 32F
電話 03-5381-3213
URL <http://meldia.org/>
MAIL prd@san-a.com



ALL ABOUT MELDIA

「メルディア」とは?

「メルディア」とは、イタリア語である「メダリア」の造語であり「メダルを」という意味です。財団メルディアは、『輝かしい人生』を手に入れて頂きたいという想いが込められた名称です。障がい者本人に加えその家族、また経済的な理由からスポーツが続けられない青少年など、「社会的なハンディキャップ」を持つ人々に対して『夢を諦めることなく挑戦することができる』ように支援をしていくことを目指しています。

MELDIA

いった意味でも、今の社会やこの冊子の読者にどういったことを伝えたいですか?
有吉 まずはお家族には、「悩みを1人で抱えないで」ということ。親の会のような様々な支援組織や団体などもあるので、そこに相談してみるのも重要ですね。それから、「こうだからあなたはここにいられません」という狭い社会でなく、多様性が認められる社会になって欲しい。それが当法人の目標でもあります。今回、取材していただいたので、中高生などの若者にもこの冊子を手にとってもらいたい、我々の活動をもっと知ってもらえたらいいと思います。また、家に持ち帰って、親御さんと一緒に知的障がい者のことを考えてもらえたら、さらにいいと思います。

対談の翌日、現場を「見たら分かりやすい」と、布施博もクリーンサービスの清掃作業に参加してみることに。都内の提携先施設へ清掃作業を体験しに向かった。
布施博は約1時間ほど、実際に作業にも加わりながらその様子を見守ったが、「1日中やったわけじゃないけど、やはり慣れない作業は辛いね。窓や天井や手すりなどが使ったところはなんでも綺麗にしないとイケないわけだから、ちゃんと教わったりもしないとね」と、手慣れたスタッフがテキパキと作業を進める一方で、布施博はすでにちよつとバテ気味の様子だ。



僕らの知らないところで世の中の仕組みを良くしていくと草の根的な活動が行われていることを知りました。やはりもっと勉強しないとイケませんねえ。

布施博が清掃作業を初体験 体験して分かった「大変さ」

作業終了後にスタッフに話を聞いてみると、「やはりトイレの臭いはなかなか慣れませんね」とのこと。一方で、「一緒に働くスタッフと仲良くなれることがうれしい」と言った声も聞かれ、やはり皆で一緒に額に汗かいて働く喜びというのは誰でも一緒なんだということが分かり、この法人が行なっている草の根運動が社会に果たしている役割も実感できた。
精神障がいを抱えて10年間引き籠っていたという男性スタッフからは、「やる気があれば何でもできるんだと分かった」と、力強い一言も。こういったさりげない生き生きとした一言が聞けたことで、やはり現場を知るのには重要だと実感した。



Hiroshi Fuse
Takayuki Ariyoshi



慣れない布施とは逆に、手慣れたスタッフは清掃作業をテキパキとこなす。「1日中やるんだから大したものだ」と布施。

トウテミル!

知的障がい者の雇用を企業に問うてみる

MC / 女優

右手ナギ

うて・なぎ



いざキャストイングロードの本社、新宿オフィスへ！
こちらでは派遣で働く方をキャストと呼ぶそうです。
障がい者雇用の難しさについても聞いてみました！

**思う程マイナスではないかも
あなたの短所は何処ですか？**

多くの日本人は、自分が「良い」と思っ
た物を、よっぽどの事がない限りは相手に
「良い」とは伝えません。
例えば、ファーストフード店でハンバー
ガーのセットを買い、セットのサラダがと
ても美味しくても、店員さんに「サラダが
とても美味しかった！」と伝えますか？
でも、フォークがついていなければ
「フォークがついてない」と苦情を言いま
すよね。だってサラダを食べられないから。
当たり前のように思いますが、掘り下げて
考えると、日本人って良い物（長所）は良
いと伝えず、苦情（短所）しか伝えない生
き物みたいにも思えてきます。
もちろん「良い」と伝える人もいるでしょ

うし、それは相手との関係性でも変わります。
そんな世の中なので、履歴書に長所と
短所を記入する欄があると悩みますよね。
『短所を挙げれば私は落とされるのでは？』
今回の取材先では、障がいを持つ方は自
分が障がい者であることを隠す傾向にあると
聞きました。やはり、障がいがあるマイナスに
なるのではと懸念しているのです。
私達健常者は、知らない内に障がい者が生
き辛い社会にしているのかもしれない。
そもそも長所と短所は紙一重ですし、他人
に言われて初めて気づく部分も多いはず。
近年ではパラリンピックの盛り上がりな
どで、障がい者に対する受け皿も広くなり、
障がい者雇用という言葉も、テレビや雑誌
などでも良く耳にするようになりました。
そう、人には必ず長所と短所があります。
ある物差しで測ってマイナスであったと

しても、別の物差しではプラスに合う場所
があるかもしれません。
それは健常者であっても同じです。
必要以上に自分の短所を隠さなくてもい
いのではないかなあと思うんですが、いざ
自分に置き換えると、おでこが狭い事を前
髪で隠して来た現実とぶつかりました。
障がいを持っている方からすれば怒られ
そうです。これも私にとっては大問題。
でも他人から見ると自分が短所だと思っ
ている部分は些細な事かもしれません。
この際、胸を張っていいでしょう。
私の短所はおでこが狭い所です。
さて、あなたの短所は何処ですか？



東京都新宿区
株式会社キャストイングロード

知的障がい者の雇用について

**コールセンターという業務は
就業時間に融通が利くんです**

右手 まず簡単にキャストイングロードさ
んの会社の概要を教えてください。
酒井 主にコールセンター派遣です。札幌
から沖縄まで、13カ所支店がございます。
全国で一日千人近くの人々が働いてらっ
しゃいます。男女比も半々くらいです。
右手 障がい者雇用はいつ頃からですか？
酒井 正式に始めたのは2014年からで
す。私が当時営業担当をしていた頃、その
時の私の稼働キャストさん（派遣業務に携
わるパートナーのこと）に精神障がいをお
持ちの方が数名いらっしゃったんです。
コールセンターという業務は、割と就業時
間の融通が利きますし、休みがちなキャス
トの方なども働きやすいという環境があっ
たということ、慢性的に人手不足という
観点から、より多くの方に働いて貰いたい
という点が一致したのだと思います。
右手 障がいをお持ちの方もコールセン
ターで働かれていますか？ 健常者で
も大変な業務かと思いますが？
酒井 残念ながら、現状では知的障がい
をお持ちの方はコールセンターの業務は難し
いと思います。実際に働いている方もおら
れません。ただ、障がいのある方でも、障



今回お話をしてくださった
キャストイングロード・
総務人事部長の酒井さん

がいの程度に合わせた仕事内容というの
は用意されています。すべてに対応するの
ではなく、一時対応だけやって、直ぐに担当
者に回すという業務などもございます。
右手 障がいをお持ちの方の雇用で難しい
ことはどういう点でしょうか？ また、今
後の雇用展開について教えてください。
酒井 障がいをお持ちの方は、それを企業
に公表する事が不利になると考えて、我々
にも申告されない方が多くおられます。こ
れは仕方のないことかもしれませんが、
我々としてはキャストさんに障がいを開示
して頂けたほうが、どのように働くかとい
うことを一緒に考えていけますので、会社
キャストさん双方にとって良い仕事環境が
作れると思っております。
酒井 弊社は子会社に工場も持っておりま
すので、まずはそちらで、知的障がいをお
持ちの方を雇用できるように進めていきま
いと考えております。



知的障がい者の 就労問題

障がいのある人たちの就労には、雇用契約を結び利用する「就労継続支援A型」と、雇用契約を結ばないで利用する「就労継続支援B型」などの種類があります。知的障がいのある方は、B型が多いようです。

では、知的障がいのある人たちは「どんな産業」や「どんな職域・職種」で活躍しているのでしょうか？ とある地域の統計によると、サービス業、繊維系製造業、食品製造業、生産工程の職業、労務の職業などが就労先の上位にきています。

そこで今回、家族に知的障がいのある弟さんを持つ佐藤さん(仮名)に、弟さんの就労にあたっての経緯やご家族が苦労された点などをお聞きしてみました。



インタビューに答えてくれたのは家族に知的障がいのある弟さんがいる佐藤さん(仮名)。ご両親が積極的に動いて弟さんの就業先を探された経緯を持つ。

※本人の希望により画像処理を施してあります

ぐに肺炎になってしまつたので、そこは家族全員で気を付けています。

編集 その弟さんが就労しようとした(就労させようとした)きっかけや、その経緯などを教えて下さい。

佐藤 うちの弟の場合、知的レベルが就労できる値までに達していませんので、かなり難しいだろうと思っていました。ただ、毎日自宅にいるのも本人にとって良くないのでは無いかと考えて、何か仕事を見つけれないかと。今は、さるNPO法人が運営する作業所に月曜から金曜までの週5日間通っています。理解のある企業さんから、ノルマの無い簡単な仕事を頂いて、日々それをこなしているようです。

編集 どのようにして、弟さんの就業先を探されましたか？

佐藤 地元(千葉県鎌ヶ谷市)を中心に、私の両親が歩き回って具体的な就労情報を集めました。主軸においたのは、指導者の人柄、自宅からの導線や距離、就労施設の環境だったようです。両親ともにインターネットを全く利用することができないので



知的障がいをもった人たちは、複雑な業務をこなすことは困難です。企業側も職種によっては身体的な障がい者しか自社雇用できないという点もあります。

すが、逆にそれが実際の現場に向く機会を増やし、結果的には幸いしました。2人で集めた情報源はひたすら「人と人との交流」だったといえます。市役所をはじめ、養護学校など、専門知識を持つておられる先生方に話を伺ったり、また同じ様に障がいを持ちながらも、すでにお子さんが就労されている親御さん達にアドバイスを受け

「ただ自宅にいるだけではなく何か仕事をやらせたい！」

編集部(以下、編集) 佐藤さんと、障がいのあるご家族との関係を教えて下さい。佐藤 兄弟です。3歳下の弟になります。編集 その方のご年齢や症状(障がいの程度など)をお聞かせください。

編集 彼は現在41歳です。症例はダウン症です。障がいの程度は知的には幼い部分が多いです。イメージでは4歳くらいの感じでしょうか。身体の方は、子供の頃は非常に弱かったのですが、今はだいぶ良くなりました。それでも風邪をこじらせると、す



残念ながら、やはり国や行政がすべてをフォローしてくれるわけではない。個人レベルで探さなければ個別にあった就労先を見つけるのは難しい。

たようです。地元の政治家にも積極的に話を聞いたと話しておりました。編集 他にもいくつか、別の候補の就業先は見つかりましたか？

佐藤 残念ながら弟は、先ほどの話のように知的レベルで、実践的な就職に結びついているわけではありません。やはり大きな知的ハンディキャップを持っているので、とうてい一般の仕事は能力的にできない。また、ウチもそうですが、知的障がいのある人は、業務どころかまず会社の仕事場や作業場まで行く(出勤する)のも一苦労だという場合もあります。これは家族にとっても大変重要な点になってくることですね。編集 弟さんの現状はいかがですか？

佐藤 我々家族としては、毎日元気で生活してくれているだけで十分満足です。編集 行政に対しての要望などは？

佐藤 知的障がいに限らず、「障がい」は十人十色です。それぞれの対象者の事情に合ったサポートプランを具体的に企画提案し、実行できる組織を作って欲しいです。また、働くために必要な知識や能力を身に付けられるよう指導する、「就労指導者」の育成を望みます。国や自治体の支援を使って、事業者の方にも積極的に障がい者雇用を進めていって欲しいと思います。





障がいを持つ作家さんたちのアート作品を掲載した図録も今回作成した。(問い合わせ/ギャラリーバーン)



ギャラリーバーン代表の清野隆さん(右)と、同アート展代表の伊藤七男さん(左)。「もっと多くの方にこの作品展を知ってもらいたい」と話す。

今回で9回目の開催となる、この「つながるひろがるアート展NASU」は、那須地域とその周辺の全14会場で、およそ180点ものアート作品を展示している。

その展示会場のひとつ、那須塩原市内にある「ギャラリーバーン」にお邪魔し、オーナーの清野隆(せいのみか)さん、同アート展の代表を務める伊藤七男(いとう・ななお)さんの2人にお話を伺った。

清野さんは、このギャラリーを経営する傍ら、自身もアート作家として活動している方。一方の伊藤さんは、足利短期大学(栃木県足利市)で、「造形表現技術」や「造形あそび実践法」などを教える教授で、現役の画家としても活躍されている。

障がい者という冠詞が外れた作家たちによるアート作品展

アートが展示されているギャラリーバーンに入って作家さんたちの作品を観させてもらった。構図はもちろん、モチーフまでもが、鮮やかな色彩をまとうて目に飛び込む。どの作品も、「障がいを持つ」という冠詞の有無に関わらず、普通の展覧会に飾ってあるアートと差異はない。

「ハンディキャップを持った作家たちはアート展に出展することで、ホテルや観光施設に自分たちの作品が飾られ、自信と喜びにつながった」と話す清野さん。

「アート展を観ることで、今まで絵を描



ギャラリーバーン
栃木県那須塩原市小結88-197/火曜定休(祝日営業)
TEL:0287-64-2288 / URL: http://barn.jp/

いた事のない人たちが絵を描く事に興味を持って、その結果、新たな才能を開花させた障がい者もいる」と語る伊藤さん。

多くの観覧者や観光客がアート展を訪れることで、回を重ねるごとに出品数が増え、同時に展示会場も多くなっていったという。実行委員会では、そこで集まった協賛金を、次回の展示費用に充て、残りを画材に換えて作家たちに寄贈している。

「作家たちは寄贈された画材によって新たな作品を創作する意欲が生まれる」(清野さん)という好循環も起きている。

本誌が発行される頃には同アート展は終了となるが、次号では布施博が、このアート展を訪れた様子を掲載。乞うご期待!



障がいを持つアート作家たちの作品展

つながるひろがるアート展NASU

古くから日本有数の観光地、また風光明媚な保養地として、皇室の御用邸が置かれていることでも知られる、栃木県那須塩原市。名峰・那須岳の麓に位置する広大な那須地域にある、カフェ、ホテル、観光施設、病院など複数の場所で、障がいを持つアート作家たちによる作品が多数展示されているという。この作品展は、作家たちに新たな発表の場を提供すると同時に、彼らの創作活動を支援するべく始められた。今回、この作品展開催の報を受けて、栃木県那須塩原市へ飛んだ。

障がい者のアート作家を支援 好評を博して展示会場が増加

那須地域に住む障がい者の芸術作品の展示を行う「つながるひろがるアート展NASU」。同展是那須地域の住民や観光客らに障がい者のアート作品を知ってもらおうと、2009年に同地域内のホテルなど7カ所の会場が始まったもの。初日から好評を博し、開催するにつれ出展数や展示会場が増加し、2016年には同地域および近隣の17施設で開催されるようになった。





水泳にスピードスケートにと
スポーツに励んで早くも11年

出産予定日から3日遅れたとはいえ、特に問題なく生まれた武瑠くん。変化に気付いたのは3歳ごろのことだったという。

「ひいおばあさんと一緒に相撲中継を見ていた時に、解説者がしゃべったのと同じことをとつとつとしゃべりだしたんです」
少し様子がおかしいところはあったが、言葉を覚えるのも早く、歌なども普通に唄っていたので障がいについて疑いは持っていなかった。しかし、3歳時の健康診断で発達が遅れぎみということが分かる。

「ショックはショックでしたが」と、美和子さんは当時のことを振り返る。「私もともと保育園で働いており、障がいを持った子供の養育に関心があったので、使命というほど大げさなものじゃないですが、神様がこの子を授けてくれたんじゃないかと、めぐり合わせのようなものを感じました」



「今が楽しい」との言葉から
明るい親子のきずなが伺える

「武瑠が成人して大人になったことで、手がかかることがだいぶ少なくなりました。そんな時間的な余裕も今は出来てきて、毎日が幸せです」と言う美和子さんだが、そこは子育て、やはり大変な時期もあったという。

「小学5年生くらいから中学2年生くらいまでの反抗期の頃はいろいろと大変でした。家の中だけでなんですが、急に暴れ出すことがあって、抑えようとした私が鼻骨骨折を負うなんてこともありまして」
月曜から金曜までは美和子さんが武瑠く

「知的障がい」に負けず
SNSで情報発信を行う
仲良し親子の活動を直撃

Special Interview

兵庫県尼崎市在住の斎藤美和子さん(51)・武瑠くん(たける・22)親子。武瑠くんは自閉症の知的障がいを抱えるが、月2回はスピードスケートや水泳といったスポーツを楽しむなど、2人がInstagramで行っている活動報告を見ると元気そのもの。そんな明るい親子の日常についてお話を聞いてみた。



武瑠くんが成人して手がかからなくなった今が幸せという佐和子さん。今までいろいろな人の理解や協力があったからこそ現在があるのだという。

んの世話をし、週末の土日は「子ども好き」だという旦那さんが一緒に遊ぶなどして武瑠くんを見ているという。
このインタビューも、たまたま親子が東京へと旅行に来るタイミングが合ったから実現したものだが、「母子2人っきりの旅行は今回が初めて」と話す美和子さんの表情はとても幸せそうだった。
ただ不安もないわけではない。やはり1人で外出させることは出来ないし、生活の身のまわり全てを武瑠くんがこなせるわけではない。将来のことも気になる。
ただ、「そんなことを言い出したらきりが無い」といいながらも美和子さんはとても前向きに武瑠くん、そして家族の今後と

周囲にも恵まれていた。近所の小学校の校長先生の孫も知的障がいを持つ子で、障がい児教育に熱心なモデル校だった。そうして美和子さんの斎藤一家は、学校の先生や教育委員会から適切なアドバイスを得ながら武瑠くんはすくすくと育つ。

小学5年生から水泳を始め、6年生にはスピードスケートも始めた。これもまた幸いなことに、斎藤さん一家が住む尼崎は障がいのスポーツ活動が盛んなところで、武瑠くんも知的障がいのある人のスポーツ大会である「スペシャルオリンピック」に挑み、何度も入賞を果たしている。

「水泳、スケート共に今も月2回の活動を怠ることなく、スポーツを始めてから今年でもう11年目になります」

そして中学、高校と支援学校に通い卒業、22歳になった現在は、バスで10分ほどの作業所に週5日通う毎日だ。



スポーツをして体を動かすのが好きだという武瑠くん。オシャレも好きで着る服には気を使っているという。

向き合っている。

InstagramなどのSNSで情報発信をする中で知り合った東京の知り合いに武瑠くんを紹介したことがあったそう。その知り合いから、ずいぶん可愛いがってもらったことがとても嬉しかったという。

今回、この取材に応じてもらったのも、そういったInstagramでのつながりと同じように、知的障がいに関する理解が草の根的にたくさんの人に広まってくれればという思いだったという。

旅行中にもかかわらず取材も快く引き受けていただけだ。最後の写真撮影で被写体に収まる2人のとても仲良さそうな様子がとても微笑ましく映った。



母子2人っきりの旅行は今回が初めてだという。帰路に着く直前に取材に応じてくれたが、親子水入らずであちこちを回れてとても楽しかったそうだ。



はじまり

水越けいこ連載

2



シンガーソングライター 水越けいこ

1954年山梨県生まれ。1978年「幸せをありがとう」でデビュー。TBSの朝の番組「8時の空」に田中星児と共にレギュラー出演。その後シングル「ほほにキスして」「Too Far Away」がヒット。現在はダウン症を持つ息子と二人暮らしをしながら音楽活動や講演活動を続けている。

息子と私の「はじまり」は 苦難と苦闘の「はじまり」

ダウン症を持つ息子「麗良（レイラ）」は25歳になりました。空手とダンスを習っていて、胸板は厚く筋肉質で、とても力持ちです。買い物時には5キロものお米でさえ軽々と持ってくれるほどです。

そんな息子ですが、実は出産から随分の間、自宅で生活することが難しく、長く病院を出入れずにいました。

普通の赤ちゃんなら、母乳や粉ミルクも元気に飲んでくれるのですが、彼は何を飲んでも下痢をし、日増しに体力が落ちていきました。一時は出生時より体重が減ってしまうという状況にまで陥り、片時も予断を許さない状況が続きました。

個人の体質だったのでした。

原因が判ってからは「エレンタール®」という成分栄養剤を与えることで、まずは少しずつでも体重を増やし、体力をつけて貰うことを目標としました。

それから私は毎日病院へと通い、限られた面会時間の中で、少しでも彼の表情を見逃さないように努力しました。泣き声を聞くだけでも、息子の体力が戻ってきた証なので、とても嬉しかったものです。

晴れて息子が退院できたのは、出生から半年ほど経った同年末の事でした。今でも年末年始になると、その頃の事を思い出しますが、毎年、年始めに息子と初詣に出かけますが、手を合わせ感謝することがあります。「神さま、麗良を元気にしてくださいとお願いがとう」と。

私・水越けいこの「はじまり」 音楽との出会いは高校生の頃

ここで少し、私が歌を歌い始めた頃、音楽を奏で始めた頃のことをお話ししたいと思います。今では随分と昔の事のようにも感じますが、昨日のことのようにも思えますが、それは高校生の頃でした。

音楽好きな家族の影響もあり、私も幼い頃から音楽が大好きでした。高校2年生の頃、初めてグループ（今でいうバンドでしょうか）を結成する事になりました。私が通っていた山梨県立高校の友達と結成したグループです。

グループ名は「青い鳥」。その名からお

察しの通り、フォークグループの「赤い鳥」(※1)に憧れ、洋楽の「ママス&パパス」(※2)などのコピーもしていました。

私たち「青い鳥」の編成は、私と同級生の女子2人がボーカルで、同級生の男子と下級生の男子2人がギターという、4人組のグループでした。

そんな私たちの演奏場所は高校の文化祭でした。結果、高校2年生の時と3年生の時、計2回出演する事が出来ました。いま思えば、各ステージとも5〜6曲の演奏でしたが、とても緊張しながらも、かなり充実した時間だったのを覚えています。

ある時、文化祭に向けた練習のさなか、唯一の下級生であったギター担当の男子が意外な事を話し始めました。

「みんなに聞いて欲しい。僕はこのグループは一流にはなれないとは思っただけで、せめてレコードを1枚でも出せるまで位は頑張りたいんだ」

私はとても驚きました。もちろん、当時の私はプロミュージシャンになることを考えたことなどはありませんし、レコードを出すなどということは、夢のまた夢、雲を掴むかのような話でした。

その練習が終わった後、なんとなく1人で帰りました。1人で居ると、その男子の真剣な表情や表現がずっと頭をよぎって止

むことはありませんでした。

「彼は凄いな。私もいつか夢を持てるかな」と思い始めた瞬間でした。

その時、少し前の事を思い出していました。中学1年生の頃、「ザ・タイガース」が一般の方から歌詞を募集したことがあり、それに私も応募したときの事です。私の歌詞のタイトルは「女神の湖」で、湖上に女神が現れるような神秘的な世界観を表現した曲でした。結果は落選だったものの、『あの時、私は夢を追っていたのかな？今も夢はあるかな？』だなんて暫く考えこんでいたものです。

時が経ち、気付けば今も私は歌い続けています。とても幸せな事だと思っています。

あの時に描いた夢を、友達が語ってくれた夢を、ずっとずっと追いついていきたいと感じている今日この頃です。



水越けいこ「僕らの気持ち」絶賛発売中！

水越けいこブログ <https://ameblo.jp/keiko-mizukoshi/>

(※1) 赤い鳥 1970年代を中心に活動したフォークグループ。代表曲に「翼をください」「竹田の子守歌」などがある。
(※2) ママス&パパス The Mamas & the Papasは、1960年代のアメリカで活躍したフォークグループ。代表曲は「夢のカリフォルニア」など。

つむぐ

知的障がい者と一緒に「ものがたり」を紡ぐ



『ダンスは楽しいもの』だった

本コーナーは「障害をもつ人との対話から出たアイデアで短編小説を作る」という企画です。小説の本編は後半に掲載して、前半では物語ができるまでに起こったことや、アイデアが浮かんだきっかけなど、これらの解説を載せていこうと思います。本冊子をご覧いただいている皆様は前半の解説から読むか、または先に関半の小説から読むか、それはお好みで選んでいただければ良いかと思ひます。

それでは解説です。前号でも書きましたが、今回の小説制作に協力してくれたのは、「レイくん」です。本冊子にも連載を持つ、歌手・水越けいこさんのご子息で、ダウン症を持っていて、彼は、明るく楽しそうな笑顔が印象的で、カメラを向けた時に躊躇なくポーズをとってくれます。そんな彼を見ているのが、私はとても楽しかったです。

『罪悪感』と『やさしさ』 『人』より『空間』を描く事

この小説のなかで、『罪悪感』という言葉が登場します。これは、彼のある発言を参考に、私なりに考えた言葉です。

対談中に彼が、「私はたまに怒ってしまふことがある」と言いました。私にはこの言葉がとても引かれました。また、その言葉の真意をつかむことが出来ませんでした。彼と話したとき、「優しい人」だと私が感じたのは、この言葉に一つのヒントが込められているような気がして、執筆中にもその真意を何度も考えました。

そして辿り着いたのが、彼が『悪いことに対して敏感だからではないか?』ということでした。彼は礼儀正しく、真面目で、善悪を見抜こうとする意志が高かったように感じました。その感覚を一言で表すために『罪悪感』という言葉を選びました。

『罪悪感』というワード自体は、意味が曖昧で、物語の核心を突く言葉としては、あまり使われません。しかし今回、私が感じた『彼の持つ優しさ』を表現するものとして、この言葉を選んでみました。『優しさ』以外にも、『成長』や『共感』などの良い雰囲気を持つ言葉に思えてきて、使わずにはいられませんでした。



取材・文 渡邊 希望 脚本家・俳優

1988年神奈川県生まれ。大学時代に現代小説を専攻。2015年「劇団ショートホープ」を立ち上げる。活動は脚本家と俳優に留まらず演出家としても活躍し、音響も手掛けるなど、多岐に渡って才能を発揮する。

今回の小説制作の過程で、私と彼とで「これは絶対に小説に入れよう」とすぐに決まったキーワードが一つありました。

それは、『ダンス』でした。これを採用した理由はとても簡単です。取材中に彼が私の前で何度も踊ってくれて、私はそれが楽しかったのです。彼はダンスを習っていて、「音楽やダンスが大好き」だと言っていました。彼と制作する小説には、この言葉は絶対に入れようと思ひました。

私は『ダンス』という言葉聞いたとき、『天才ダンサー』または『努力家のダンサー』を作中に登場させようと考えていました。彼にどちらを登場させるのが良いか尋ねたところ、「ダンスは楽しいもの」だと答えてくれました。そこで、『楽しいダンス』が描けるようなシーンを考えました。

作中に『食べる』という言葉が出てきますが、これも彼が焼き菓子を食べているところが印象的だったので、そのまま『食べる』というシーンにしてみました。



レイくんはいつも優しいで、サービス精神旺盛です。私を引っ張っていつてくれるかのようで、彼と一緒にいると、『心強さ』すら感じていました。

本編のキャラクターは私が考えました。登場するのは『タンポポ』と『トカゲ』ですが、『タンポポ』はレイくん、トカゲは私というように、お互いを何かに当てはめるという発想ではありませんでした。

その理由は、彼と話したときに印象的だったのは、朗らかな笑顔が作りだす『優しい雰囲気』でした。今回のストーリーは、『彼のひととなり』を書くより『彼と話しているときの空間』の方を描いた方が、より彼らしさが出せると考えました。そのためにも選んだのが、この2種類でした。

間違いなく、彼と話したことで紡ぐことができた物語だと思います。それでは、本編に入ります。ぜひ、ご一読ください。



成長ダンス

その小さなトカゲは、蒲公英たんぽぽが好きだった。花を見つければ近寄って行って眺めた。綿毛が飛ぶ瞬間にはトカゲは無心に追いかけて飛びついて食べた。蒲公英が咲いていれば、トカゲは昼寝をするときいつも蒲公英のそばへ行って、花と喋ってから寝た。

ある日、トカゲは昼寝から目覚めたあと、目の前の蒲公英を食べた。綿毛はよく食べていたけど、花を食べたのは初めてだった。トカゲはあまりのおいしさに、近くの蒲公英をひたすら食べた。

満腹になったトカゲは、昼寝がしたくて、遠くの蒲公英のところまで行って、蒲公英と喋ったあとゆっくり眠った。

昼寝から目覚めた小さなトカゲは、食べるための蒲公英の場所と、眠るための蒲公英の場所を決めた。すると、トカゲは食べるための蒲公英とは会話をしなくなった。眠るための蒲公英はもつと大切にした。

それからしばらくして、食べるための蒲公英が、トカゲに話しかけた。
「私たちとは話をしないのですか」

小さなトカゲは、しばらく何もしなかった。口々、お腹を動かして呼吸した。

トカゲが長く感じたその時間は、どれくらいだったのか。トカゲの虚しさは、寂しさに変わっていた。静かになった一面の白い世界で、トカゲは誰にいうでもなく、ねえ と呟いた。すると、綿毛たちは一斉にどうしたの？ と答えた。

トカゲは驚いて、訪ねた。
「なんで返事をしてくれるの？」
「話しかけられたからだよ」
綿毛たちは当たり前のように言った。

「僕はさっき君たちに怒りをぶつけたのに」
「君が僕たちを食べるのは当たり前だよ」
「君たちは怒っていないのかい？」
「なぜ？何も怒るようなことはないよ」
「なぜさっきは不機嫌な声だったんだい？」
「それは種族が違うから、そう聞こえただけじゃない？僕たちは、いつも君と話したかったよ。ダンスを踊っている君のおかげで、僕らもダンスが踊れるんだ」

トカゲは、笑って、ダンスを踊った。しかし、その小さなトカゲは、罪悪感を知ってしまった。小さなトカゲは、自分の気持ちに蒲公英に伝わるようにと、踊った。

作：渡邊希望&レイくん

トカゲは、喋ってしまったとその蒲公英を食べたくなくなるので、会話を遮るように話しかけてきた蒲公英を食べた。

少しして、また蒲公英たちは綿毛になった。小さなトカゲは、真っ白な世界で、夢中になって綿毛に食らいついた。そんな中、ある綿毛がトカゲに話しかけた。
「君は楽しそうだね」

「楽しいよ、ダンスを踊っている気分だ」
とトカゲは答えたが、それは、自分の不機嫌を隠すためだった。続けて言った。
「君こそ、なんだその不機嫌そうない方は、具合が悪くなる」

すると綿毛は一斉に黙った。口々、白い、静かな世界になった。トカゲは、もつと不機嫌になって、小さく小さく呟いた。

「なんだい、嫌がらせかい？」
とても、とても居心地が悪い」

トカゲは、怒りに身を任せて綿毛に食らいついた。綿毛たちは、トカゲの起こす風でひらひらと舞っていた。

トカゲは疲れて、止まった。お腹いっぱいになって、思う存分遊んで。あとは寝るだけだと思っただけ、話をしてくれる蒲公英がいなかった。トカゲは虚しくなった。

彼と私とで物語をつむいだ時間を振り返ってみる 2人が感じたことの間にある物語であってほしい

「つむぐ」第二回にして小説が初めて掲載されました。本作品も、思い入れのあるものとなりました。お楽しみいただけでしょうか。

私も二回目ともなれば少しは慣れると思いましたが、冊子の記事とは奥深い。やはりと言うべきか、なかなか思うようにいきませんでした。そんな中でも、短編小説を載せられたこと、感慨深いです。

次号以降も、載せていく予定です。本記事が皆様の日常のちょっとしたワンクッションになれたらと思います。次回もお楽しみに。

本コーナーでは協力してくれる方を募集しております。募集コーナーをご覧いただき、是非お便りをお寄せください。ご意見ご感想だけでももちろん結構です。心より、お待ちしております。



アライヴしようぜ!

最前線の生きるを見つける



「働くひと」と「働く場所」 年々増加する障がい者雇用

多くの人にとって「働く」ということは、自立したり豊かな暮らしを求めたりすることが目的であろう。それは障がいを持って生きる人たちも同じことだ。

厚生労働省は今年、ハローワークを通じた障がい者の就職率が8年連続で増加したと発表している。平成27年度の90191件から平成28年度は93229件(対前年度比3.4%増)となり、就職率も48.6%に上昇した。就職率が増加した要因は、障がい者の「働きたい」という意欲の高まりと、雇用する側である企業の取り組みが拡大しているからだと考えられる。

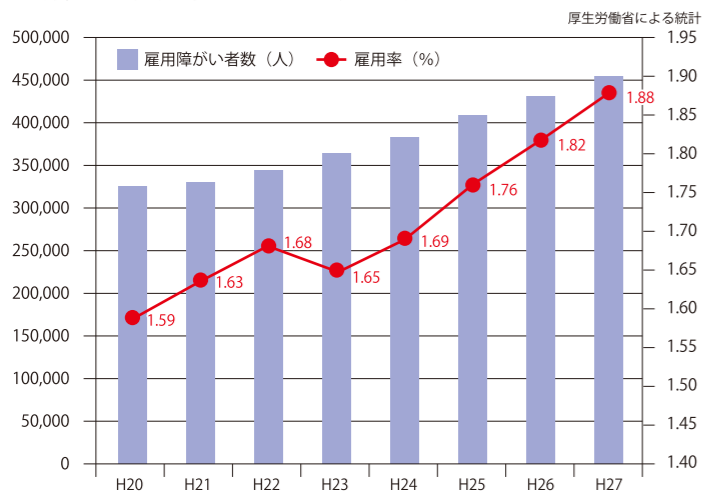
現在、我が国の障がい者総数は約860万人とされており、このうちの約354万人が雇用施策の対象者であるといわれている。障がい者の雇用形態には大きく分けて、一般就労と福祉的就労がある。一般就労と



取材・文
末吉 利啓 栃木県足利市市議会議員
プロレスラー

1981年足利市生まれ。プロレスリングアライヴのプロレスラー。メキシコ修行後2009年にプロレスリングアライヴを旗挙げ。2015年に足利市議会議員選挙に出馬し初当選。関東若手市議会議員の会副会長。

平成27年度 障がい者雇用状況



また、今までは盛り込まれていなかった障がい者への差別的禁止や、障がい者への配慮義務なども新たに含まれている。そのため、企業側が障がい者への安定した雇用を維持するための助成金も用意されている。なお、雇用義務を履行しない事業主にはハローワークが行政指導を行うとともに、障がい者雇用納付金を徴収されることになっている。また、改善が見られない場合には企業名の公表を行うこともある。

もうひとつの働くかたち 障がい者の「福祉的就労」

福祉的就労は、仕事をしたいという意欲があっても、障がいにより一般就労が難しいため、病気や障がいにより配慮してもらいながら就職するための訓練と働く場を提供されるもので、「就労移行支援事業」と「就労継続支援事業A型」(※1)、「就労継続支援事業B型」の3つに分けられる。

障がい者雇用に関する法改正

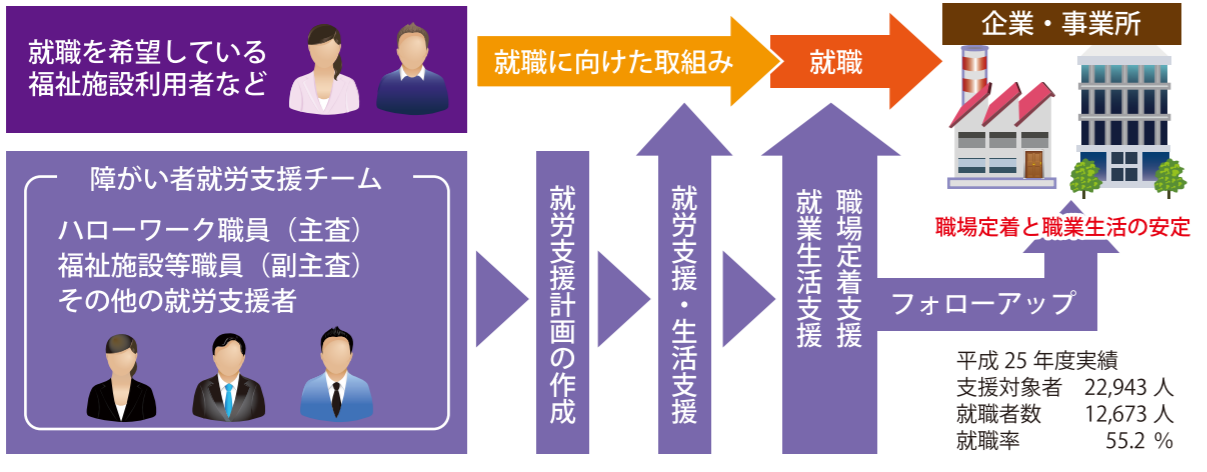
厚生労働省の資料をもとに作成

施行適用日	改正内容
平成22年7月	<ul style="list-style-type: none"> 雇用納付金申告義務が常用労働者201人以上300人以下の企業に拡大する 週20時間以上30時間未満の短時間労働者を労働者数にカウントする
平成27年4月	<ul style="list-style-type: none"> 雇用納付金申告義務が常用労働者101人以上の企業に拡大
平成28年4月	<p>障がい者の権利に関する条約の批准に向けた改正対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者に対する差別的禁止 合理的配慮の提供義務を課す
平成30年4月	<p>法定雇用率の算定基礎に精神障がい者を加えて法定雇用率UP</p> $\text{法定雇用率} = \frac{\text{身体障がい者・知的障がい者および精神障がい者である常勤労働者の数} + \text{失業している身体障がい者・知的障がい者および精神障がい者の数}}{\text{常用労働者数} - \text{除外率相当労働者数} + \text{失業者数}}$

(※1) 就労継続支援A型 障がい者が一般就労を目指し、雇用契約を結び給料の支給を受けながら利用する事業。雇用契約のないB型と違い、最低賃金が保証され比較的安定した収入が得られる。

障がい者就労に向けたハローワークを中心とした「チーム支援」

福祉施設等の利用者をはじめ、就職を希望する障がい者個人に対してハローワーク職員と福祉施設等の職員、その他の就労支援者がチームを組んで、就職から職場定着までの一貫した支援を実施



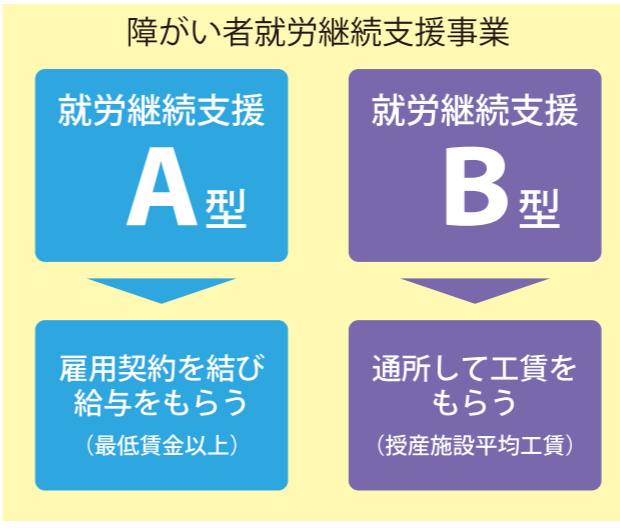
障がい者雇用を促進するために国は様々な制度や支援を打ち出している。では、地方公共団体（以後、自治体）ではどのような取り組みが行われているのだろうか。ここで紹介してみたい。

東京都においては、「東京都中小企業障害者雇用支援助成金」という制度を導入している。大企業に比べて障がい者雇用の進んでいない都内の中小企業を対象として、障がい者雇用の拡大と職場定着の促進を図るために障がい者を雇用した企業に対して

「広がりを見せる」支援の輪
地方公共団体による雇用支援

「援助者」が職場に向いて、障がい者と企業の双方に対し助言や支援を行い、障がい者の職場適応、定着を図ることを目的とした支援や、短期間の試行雇用（トライアル雇用）を通じて、適正な能力を見極め、継続雇用への移行を促進する制度がある。

ちなみに、トライアル雇用で障がい者を試行的に雇い入れた事業主への助成金（障害者トライアル雇用奨励金）や、ハローワークなどの紹介により障がい者を雇用した事業主への助成金（特定求職者雇用開発助成金）などがあり、行政側が企業の積極的な活用を促し、後押しを行っている。



就労移行支援が一般企業への就職を前提とした支援であるのに対し、就労継続支援は、一般企業への就職が困難とされる障がい者へ就労の場を提供する支援である。

つまり、「移行支援」II「働くための訓練をする場」で、「継続支援」II「働く場」そのものとなる。就労継続支援A型とB型の違いは、A型は雇用契約を結び、B型は結ばないところだ。

一般企業での雇用は困難だが、雇用契約に基づく就労が可能な障がい者が対象なのがA型であり、一般企業に雇用されることも困難で、雇用契約に基づく就労も困難な

「働く」ということは、誰かの役に立ち、人に必要とされ、自分が社会の一員としての誇りを持つことではないだろうか。

近年の障がい者雇用の増加、様々な法や制度の整備などにより、これまでは手厚く保護を受ける側であった障がい者が、積極的に社会に出ている。他者（ひと）のために働き、障がい者と健常者がお互いに補完し合い、お互いを必要とする社会となっていくことが期待される。

助成金を支払うというものである。

大阪府では「大阪府障害者の雇用の促進等と就労の支援に関する条例」を制定しており、府と関係のある障がい者雇用率の未達成事業主に対して、達成に向けた取り組みの誘導や支援を行っている。

それでも改善の兆しが見られない事業主に対しては「事業主の公表」などの措置を行う一方、障がい者の雇用や就労支援に積極的な活動をみせる事業主（企業）に対しては表彰なども行っている。

そもそも「労働」は、障がいの有無に関わらず生存権を実現するための基本的な権利の一つとして存する。

2006年に国連で採択され、2014年に日本も批准した、「障害者の権利に関する条約」にも、「労働は障がい者の権利の一つである」と記されている。

障がい者を対象にしたものがB型となる。

A型の場合、雇用契約を結ぶということは、行った仕事に対して給料が支払われるということであり、最低賃金も保証される。作業はデータ入力作業、梱包封入などの軽作業、パン作り、花弁の生育などがある。

B型の場合では賃金は支払われないが、それに変わって工賃（手間賃）が支払われ、作業も負担の少ない内職系の軽作業が中心となることが多い。

「仕事と障がい者を繋ぐためのハローワークによる雇用支援」

「仕事を探す」といえば、真っ先にハローワークが思い浮かぶだろう。ハローワークでは、障がい者専門の窓口の設置や、障がい者の求職登録を行い、専門の職員・職業相談員が職業相談や職業紹介、職場適応指導などを実施している。

また、就職を希望する障がい者に対して、ハローワークが中心となって、障害者就業・生活支援センター、地域障害者職業センター、就労移行支援事務所、特別支援学校、医療機関等の関係機関からなる「障害者就労支援チーム」を作り、就職に向けた準備から職場定着までの一貫した支援を行う「チーム支援」を実施している。

その他にも、「ジョブコーチ（職場適応

親なきあと

知的障がい者の子のための生活支援②

弁護士
岡野 和弘

親亡き後の知的障がい者の子のための生活支援・2

前回の連載では、知的障がいを持つ子の判断能力が衰えた場合に備えて、子と私との間で任意後見契約を締結する方向で親と協議することとなったこと、ただ、子の判断能力が衰える前の時期も、子の生活の不安は残るので、その時期の対策も含めて検討することとしたことまで説明しました。

今回は、判断能力が衰える前の時期についてどのような対策を取ることとしたか、また、子の生活支援のために具体的にどのような契約内容としたかについて説明します。

判断能力が衰える前の時期の生活支援については、子と私との間で財産管理契約を締結することとしました。財産管理契約とは、判断能力に問題がなくても、高齢や知的障害等のために金銭や財産の日常的な管理について困難や不安がある場合に、本人

の財産管理を委任する契約です。ただ、両親が元気な間は両親が子の財産を管理したいということでしたので、私が財産管理を始める時期は、両親が私に依頼したときとしました。その他、両親が亡くなったときや、両親が成年後見制度を利用するようになったときも、両親による財産管理ができない状態になりますので、私が財産管理を始めることとしました。そして、私が財産管理を始めるようになった後に子の判断能力が不十分な状況になったときに、私が家庭裁判所に任意後見制度を申し立てることとして、これ以後私は任意後見人としての財産管理をすることとしました。

具体的な契約内容については、まず、①子の預貯金等財産の日常的な管理を行うこと、②障がい者施設に入所した場合の利用料金の支払いや病院に通った場合の治療費の支払い等を私が日常的に行うこと、③障がい者施設の入所契約や高齢になった場

合の高齢者施設の入所契約、入院が必要になった場合の入院契約等、子が契約締結の必要に迫られた場合に私の子のためにこれらの契約締結を行うこと等が、私の主な業務となりました。

また、両親は、子には知的障がいの影響でお金を渡すと渡されたお金を直ちに使い尽くしてしまう性質があるということと、これにより子の全財産があつという間に使い尽くされてしまうことを心配していました。そこで、このような事態を防止するため、財産管理契約と任意後見契約双方で、私が子に生活費として一週間に一度だけ一定金額のみ渡すこととしました。但し、臨時の出費が生じた場合は別途必要なお金を渡すこととしています。

なお、知的障がいがある子の収入は障害年金以外にまともな収入は期待できないと思われ、子の生活支援の大前提として、そもそも子にある程度まともな財産があるに越したことはありません。そのため、本件の両親も、まともな金額を子に贈与することとし、これを私が管理する財産に含めることとしました。

以上のような方針、内容で財産管理契約と任意後見契約を締結することで、私の子の財産を守りつつ生活支援をしていくこととしました。

「任意後見契約」とは何か 「公正証書」の作成も必要

任意後見契約とは、委任契約の一種で、委任者（以下「本人」ともいいます）が、受任者に対し、将来認知症などで自分の判断能力が低下した場合に、自分の後見人になつてもらうことを委任する契約です。

人は、年を取ると、次第に物事を判断する能力が衰えます。特に、いわゆる「認知症」に罹患して症状が酷くなると、自分の財産の管理ができなくなり、いくらお金を持っているにしても、自分ではお金が使えない状態になります。また、病院で医師の治療を受けようとしても、医師や病院と医療・入院契約を締結することができず、治療等を受けられなくなるおそれがあります。ほかにも施設に入所しようとしても入所契約を締結することができず、サービスを受けられなくなるおそれがあります。

そこで、自分の判断能力が低下した場合に備えて、あらかじめ、自分がそういう状態になったときに、自分に代わって、財産管理や必要な契約締結等してもらうことを、自分の信頼できる人に頼んでおけば、すべてその人（「任意後見人」といいます）に任せてもらうことで、生活支援を受けることができます。

任意後見契約は、家庭裁判所が任意後見人を監督する任意後見監督人を選任したときから、その契約の効力が生じます。この段階では本人は既に判断能力が低下しているため、本人の代わりに任意後見監督人が、任意後見人の仕事について、それが適正になされているかをチェックして、家庭裁判所に報告します。家庭裁判所も、任意後見監督人からの報告を通じて、任意後見人の仕事を間接的にチェックする仕組みになっているのです（以上、日本公証人連合会のホームページ参照）。

今回の連載では、成年後見制度のうち保佐制度を利用した知的障がい者の生活支援について説明致します。



周りに頼れる親族などがない場合は、専門職に成年後見制度の活用をお願いするなど、親亡き後の障がい者の生活と資産の保護と保全をしましょう。

公正証書とは

公正証書とは、裁判官や検事などを長く務めた法律実務の経験豊かな公証人が、その権限において作成する公文書のことです。全国に約300箇所ある公証役場で、公証人に作成して貰います。詳細は、「日本公証人連合会」のホームページをご参照下さい。

公正証書といえば遺言を思い浮かべる方も多いと思いますが、任意後見契約を締結するには、「任意後見契約に関する法律」により、公正証書でなければなりません。財産管理契約を同時に締結するときも、任意後見契約と併せて「公正証書」を作成することが通常です。

弁護士を通じて公正証書を作成することもできます。連載で紹介した相談案件も、私が任意後見契約書案と財産管理契約書案を作成して、公証人にこれらの契約の公正証書作成を依頼しました。

募集 & 告知

Recruitment & Announcement

障がい者求人情報／募集と告知

このコーナーでは、障がい者の求人を行っている企業や団体を紹介しています。また、本誌の取材等にご協力をいただける企業や団体の募集もこちらから。

キャスト登録者を募集しています

障がいをお持ちの方もぜひご相談ください



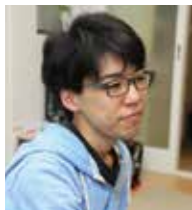
仕事と私生活の両立ができ、働く時間や期間を選ぶこともできます。あなたの希望と相手先企業の定時条件が合えば、すぐに働けます。まずは登録から。障がいをお持ちの方もぜひご相談ください。



■株式会社キャストイングロード
労働者派遣事業(許可番号13-070563)
有料人材紹介業(許可番号13-ユ-301076)
■本社所在地
東京都新宿区新宿3-1-24
京王新宿三丁目ビル7F
■TEL: 03-6384-0520
■ホームページ
<http://www.cr2.co.jp/>

「つむぐ」協力者を募集

知的障がいの方とその保護者の方で、小説制作のため、対談のお時間を頂ける方を募集しております。対談時の内容と写真、対談で作った短編小説が本冊子に載ります。ご協力頂ける方は、下記の宛先までご連絡ください。



■応募要項
知的障がいの方、またはその保護者や親族、施設や団体のご担当者
■お問い合わせとご連絡先
一般財団法人メルディア 事務局
担当/竹内 宛て
TEL: 03-5381-3213
MAIL: prd@san-a.com

布施博の訪問先を募集中

障がい者を雇用する企業や団体に布施博本人が訪問します。訪問先では、企業または団体の障がい者に対する取り組みや活動などを取材し、本冊子にて紹介します。行事や催事の告知も可能です。奮ってご応募ください。



■応募条件
障がい者を雇用している(雇用予定も含む)企業や団体など
■お問い合わせとご連絡先
一般財団法人メルディア 事務局
担当/竹内 宛て
TEL: 03-5381-3213
MAIL: prd@san-a.com

募集や告知などの情報を無料で掲載しています

一般財団法人メルディアが発行する「月刊メルディア(本誌)」では、障がい者を雇用する企業や団体、各種の養護施設または学校などの募集ことや告知などを無料で掲載しています。「知的障がい者を雇用したい」「障がい者施設で開催するイベントを告知したい」などがありましたら、メルディア事務局までお問合せください。

一般財団法人メルディアの活動方針ならびに本誌の編集方針にそぐわない内容、営利目的の内容、特定の宗教や信条を持つと判断される内容、反社会的と判断される内容などについては掲載をお断りする場合があります。あらかじめご了承ください。

情報掲載のお問い合わせ

一般財団法人メルディア

〒163-0632
東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービル32F

一般財団法人メルディア 事務局
担当/竹内 宛て

TEL: 03-5381-3213
MAIL: prd@san-a.com



T.OKAMOTO column

岡本隆根 何気ない言葉

～ダウン症の弟を持つプロデューサーと出会って～

こんにちは。岡本隆根です。前号のコラムを読んでくれた方には、わしの生まれ故郷(兵庫県佐用町)がいかにも田舎だったのか?をお判り頂けたかと思いますが、わしがやってきた東京は故郷の兵庫県とは何もかもが違っていました。そして、時間が経つにつれて徐々に東京という魔物に喰われていったんです。夢や希望が煌びやかに充満し過ぎていて、一体何をすればいいのか逆に分からない。自分自身でも「何がしたいのか」さえ見失ってしまいました。

長きに渡る紆余曲折の年月を過ごし、音楽の道を歩む事になるのですが、その歩みに大きな影響を及ぼす人が現れたんや。出会いはレコード会社と音楽制作会社が主催する「麻雀大会」。後に聞くと、わしの打ち筋に何かしらの感覚を覚えたい。麻雀の打ち筋というのは人生の写し鏡とも言うでな。出会ったその日から徹夜で飲み明かし、徐々に意気投合した2人やった。しかし、いかんせん本当の意味ではそう簡単には心を開かん。なんせ、お互いに裏切りや絶望をくまなく経験してきたからな。えっ? どんな人生を送ってきたのかって? それはまた来月からでもゆっくり書かせて貰います。お楽しみに!

岡本隆根ワンマンツアー
～KINGS OF THE ROCK～

2018年2月9日(金)
【大阪】 なんばHatch
2018年3月23日(金)
【名古屋】 CLUB DIAMOND HALL
2018年4月28日(土)
【東京】 渋谷区文化総合センター大和田
さくらホール

岡本隆根ブログ <https://ameblo.jp/takaneokamoto/>
岡本隆根レギュラー番組
ZIP-FM (77.8MHz) 「ON THE ROCK」 毎週日曜日23:30～24:00
FM OH! (85.1MHz) 「どいんでい〜ず」 毎週木曜日 20:30～20:55



シンガーソングライター

岡本隆根

Takane Okamoto

1979年兵庫県生まれ。法政大学に進学するも中退。その後、紆余曲折を経て音楽活動を志すが様々な寄り道を繰り返して大停滞する。30代に入り、真剣に自分の音楽への意思を見つめ直し再出発。現在では、その勢いが認められ各界において支持者が続出中。



Design Your Life
MELDIA
GROUP

同じ家は、つくらない。

02 MELDIA CONTENTS 2018 FEB.

01 | 布施博が訊く

東京都知的障害者育成会 編

06 | 一般財団法人メルディアとは？

メルディアの基本理念、財団概要、支援事業

07 | 知的障がい者の雇用について

東京都新宿区・株式会社 CASTING ROAD 編

08 | トウテミル！

MC&女優・右手ナギが企業に「問うてみる」

09 | 家族に聞いた

知的障がい者の就労問題についてを家族に聞いた

11 | つながるひろがるアート展 NASU

栃木県那須塩原市・障がいを持つ作家たちのアート展

13 | 知的障がい者を応援！

兵庫県尼崎市・斎藤美和子さん&武瑠くん親子

15 | 水越けいこ連載「M size」

水越けいこが愛息・レイくんとの日々を綴る

17 | つむぐ

知的障がい者と一緒に「ものがたり」を紡ぐ

21 | アライブしようぜ！

異色のプロレスラーが最前線の「生きる」を取材

25 | 知的障がい者の子のための生活支援

弁護士が教える「親なきあとの生活支援」について

27 | 何気ない言葉

シンガーソングライター・岡本隆根の本音コラム

28 | 募集&告知

知的障がい者向けの求人情報と告知

MELDIA 2月号 2017年12月25日発行

発行元 / 一般財団法人メルディア事務局

発行人 / 小池信三

編集 / 株式会社サン・オフィス

編集人 / 東宮恵美

編集長 / 山口慎市

進行 / 東宮恵美、山口慎市、谷田貝亘介(新村印刷)

編集部 / 東宮恵美、山口慎市、谷口智彦、都筑亮太、加島和彦

ライター / 水越けいこ、岡本隆根、岡野和弘、坂田陽子、山口慎市、都筑亮太、渡邊希望、右手ナギ、末吉利啓、加島和彦、横関寿寛

カメラマン / 加島和彦、工藤裕之(株式会社PHOTO MIO JAPAN)

デザイン / 有限会社フレッシュ・アド

印刷製本 / 株式会社オフセット

協力 / MELDIA GROUP 株式会社三栄建築設計、株式会社キャストイングロード、東京都知的障害者育成会、ギャラリーバーン(栃木県那須塩原市)、清野隆、伊藤七男、株式会社TDPミュージックパブリッシャーズ、新村印刷株式会社、株式会社協同エージェンシー

本誌の無断転載・複製を禁じます

2017-2018©All Rights Reserved. 一般財団法人メルディア&月刊メルディア/MELDIA GROUP 三栄建築設計/サン・オフィス

次号予告

MELDIA VOL.3

2018年1月25日
発刊予定

一般財団法人メルディア

〒163-0632

東京都新宿区西新宿 1-25-1

新宿センタービル 32F

一般財団法人メルディア事務局

TEL: 03-5381-3213

MAIL: prd@san-a.com

メルディアグループ

<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計

〒163-0632

東京都新宿区西新宿1-25-1

新宿センタービル32F



まだ25年、
これからのメルディア